

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

個々に応じた教育活動を通して、社会において自立できる生徒を育成し、地域に信頼される学校をめざす。

- 1 自分を大切にするとともに他の人も大切にすることを育成する。
- 2 将来の生き方やあり方を見つめ、未来を切り開く力を養い、自立した社会人を育成する。
- 3 学ぶ喜び、わかる喜び、達成感を味わわせ生涯にわたって学び続ける態度を育成する。
- 4 生徒を支援・指導する力を教職員がより高め、生徒が信頼して、相談したいと思える学校（心の居場所）づくりを行う。

## 2 中期的目標

## 1 安全安心で魅力ある学校づくり

## (1) 生徒の居場所づくりと個々の生徒への支援体制の強化

## ア 教育相談体制の確立

- ・生徒一人ひとりに寄り添い、教員と生徒との人間関係を築き、生徒が学校に行きたいと思える学校づくりを行う。
- ・ケース会議などを通じて生徒情報の共有を図り、生徒一人ひとりに応じた生徒支援・指導を行う。

※生徒向け学校教育自己診断の項目「悩みや相談にのってくれる先生がいる」の肯定率（H30 82%・R01 60% R02 95%）、令和5年度まで90%以上を維持する。

## イ 個に応じた支援体制のさらなる充実と外部人材の活用

- ・支援コーディネーターを中心にSC、SSW等、教職員、保護者（生徒）との3者（4者）が有機的に連携協力できる体制づくり。
- ・支援教育や生徒のコミュニケーション能力を育成する外部人材の活用および教員の校外研修への参加。

※教員向け学校教育自己診断の項目「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」の肯定率（H30 96%・R01 90%・R02 75%）を、令和5年度に90%以上にする。

※生徒のコミュニケーション能力向上や支援教育等の教員向け外部研修への参加者数（H30 50人・R01 209人・R02 70人）を令和5年度まで60人以上を維持する。

## ウ 命を守ることや健康を維持増進することに主体的に取り組む力を育むために保健、交通安全や薬物乱用防止、防災・防犯についての教育の充実を図る。

- ・感染症の予防を含め生徒の心身の状態を把握するために毎日健康確認を行い、生徒が安心して学ぶことができる環境を整える。
- ・地域の公的機関等の外部人材を活用した生徒への研修や講習を実施する。

※警察や消防署、区役所等の外部機関との連携による避難訓練や講習、校内研修を年3回以上実施する。

## (2) 特別活動等を通じた生徒の自己有用感の醸成と、集団への帰属意識の向上

## ア 部活動の活性化に向けた取り組みの推進

- ・部活動時間が短い中であっても、効率よく活動し定時制通信制大会等へ積極的に参加する。また、部活動を通して集団の規律のあり方など理解させる。

※生徒向け学校教育自己診断の項目「先生は、学校生活で自分が努力したことを認めてくれる。」（R01 72%・R02 95.2%）を、令和5年度まで90%以上を維持する。

## イ 体育や文化的行事の活性化

- ・行事等を通して、自主自立の精神や他者と関わる力を養うとともに、各行事の目標の明示と振り返りを行うことにより、達成感、自己肯定感を高める。

※生徒向け学校教育自己診断の項目「学校行事が楽しく行われるように工夫されている。」の肯定率（H30 71%・R01 60%・R02 100%）を、令和5年度まで90%以上を維持する。

## (3) 学校運営上で必要な情報共有を図るための連絡会等を適宜設け、トラブルの未然防止や早期発見、苦情等の早期対応を全教員で共有し実践する。

## ア 教員間の意思の疎通を高め、活発な議論を行うための連絡会議等を実施し、学校運営上必要な情報共有を図るとともに早期発見や早期対応を実践する。

※教員向け学校教育自己診断の項目「職員会議、連絡会、情報共有会議など教職員間の意思疎通や意見交換、情報共有の場として有効に機能している」の肯定率（H30 77%・R01 63%・R02 75%）を令和5年度には80%以上にする。

## 2 確かな学力の育成

## (1) 「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善への取り組み

## ア わかる授業の推進と基礎学力の定着

- ・0限目授業の実施と西野田クエストをさらに充実発展させる。

（西野田クエスト：総合的な探究の時間において、個々の学習進度に応じて発展的に学習課題を設定し、基礎学力の向上へ主体的に学ぶ力を育成する本校独自の取り組み）

※生徒向け学校教育自己診断の項目「授業内容はわかりやすい」の肯定率（H30 86%・R01 64%・R02 91%）を令和5年度まで90%以上を維持する。

## イ 授業アンケートや学校教育自己診断を活用した授業改善の推進

- ・授業アンケートや学校教育自己診断を活用し生徒や保護者のニーズを分析して各教科の授業改善を推進する。

※教員向け学校教育自己診断の項目「学習意欲の高い生徒や低い生徒に対する学習指導を、個に応じた視点で工夫して行っている」の肯定率（H30 91%・R01 90%・R02 90%）を令和5年度まで90%以上を維持する。

## ウ 1人1台の端末の導入に向けてICTの活用による授業改善を推進する。

- ・生徒の興味・関心を導くICT機器等を活用した授業数の増加とグループウェアの使用に向けた校内研修や研究授業を実施し、教員のICT活用力の向上に努める。

※教員向け学校教育自己診断の項目「コンピューター（タブレット端末）等のICT機器が、授業などで活用されている。」の肯定率（H30 68%・R01 90%・R02 100%）を令和5年度まで90%以上を維持する。

## エ 資格取得の奨励と支援

- ・生徒の学習意欲の向上に向けて西野田クエストの活用と資格取得の奨励と支援を行う。

※専門高校の特色を生かし、組織として資格取得に向けた支援体制を充実させるとともに、西野田クエストの活用による生徒のモチベーションアップを図る。また、資格取得に挑戦する生徒の増員とその合格率（H30 67%・R01 100%・R02 67%）を令和5年度には80%以上にする。

## 3 夢と志を持つ生徒の育成に向けた指導計画の確立

## (1) 社会の形成者としての自覚と忍耐力・責任感を養い、規範意識を身につけさせる。

## ア キャリア教育の実施

- ・通用門でのあいさつなど、教職員の積極的な関わりや、清掃活動など地域との交流を通して社会人としてのマナーや規範意識を養う。
- ・キャリア教育、志学、道徳、人権教育を総合的に行うための校内研修の充実を図る。
- ・系統立てたキャリア教育として、総合的な探究（学習）の時間やホームルーム活動を活用し、道徳や人権等の指導内容の充実を図る。
- ・進路担当者や担任等のキャリアコーディネーター力を活用し、生徒の進路ニーズの把握に努める。

※生徒向け学校教育自己診断の項目「将来の仕事について先生と話したことがある」の肯定率（H30 86%・R01 80%・R02 86%）を令和5年度まで80%以上を維持する。

※卒業時の進路未決定生徒、毎年0人をめざす。

## (2) 出身中学校との連携による中途退学・長期欠席の防止および原級留置の減少

## ア 不登校生徒への働きかけや保護者との連携強化

- ・出身中学校、前籍校との連携および懇談、家庭訪問等による共有した情報に基づき、生徒に寄り添い、課題を抱えた生徒の出席率の増加を図る。
- ・「教科指導」＝「生徒指導」という認識で授業にのぞむ。

※すべての新入生について、出身中学校を訪問する。編転入生については前籍校と連携する。生徒指導的中学校訪問回数（H30 9回・R01 16回・R02 6回）について、しっかりと連携がとれる回数を令和5年度まで維持する。

※当年度の出席率平均（H30 79%・R01 86%・R02 84%）、を令和5年度まで80%以上を維持する。

## 4 校務の効率化と働き方改革の推進

## (1) 働きやすい職場環境づくり及び教職員の健康管理

## ア ノークラブデー、ノー残業デーの実施及び学校閉庁日の設定やゆとり月間、週間などの積極的な活用

- ・教職員の勤務時間の管理を行い、時間外勤務時間の減少を図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価

## 府立西野田工科高等学校 定時制の課程

1 安全安心で魅力ある学校づくり	<p>(1) 生徒の居場所づくりと個々の生徒への支援体制の強化</p> <p>ア 教育相談体制の確立</p> <p>イ 個に応じた支援体制のさらなる充実と外部人材の活用</p> <p>ウ 命を守ることや健康を維持増進することに主体的に取り組む力を育むために保健、交通安全や薬物乱用防止、防災・防犯についての教育の充実を図る。</p> <p>(2) 特別活動等を通じた生徒の自己有用感の醸成と、集団への帰属意識の向上</p> <p>ア 部活動の活性化に向けた取組みの推進</p> <p>イ 体育や文化的行事の活性化</p> <p>(3) 学校運営上で必要な情報共有と発信</p> <p>ア 職員会議以外でも連絡会等を適宜実施する。</p> <p>イ 学校 Web ページによる情報発信</p>	<p>ア・生徒一人ひとりに寄り添い、教員と生徒との人間関係を築き、生徒が学校に行きたいと思える学校づくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケース会議などを通じて生徒情報の共有を図り、生徒一人ひとりに応じた生徒支援・指導を行う。</li> </ul> <p>イ・個に応じた支援体制のさらなる充実と外部人材の活用。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援コーディネーターを中心に SC、SSW 等、教職員、保護者（生徒）との3者（4者）が有機的に連携協力できる体制づくり。</li> <li>・支援教育や生徒のコミュニケーション能力を育成する外部人材の活用および教員の校外研修への参加。</li> </ul> <p>ウ・命を守ることや健康を維持増進することに主体的に取り組む力を育むために保健、交通安全や薬物乱用防止、防災・防犯についての教育の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症の予防を含め生徒の心身の状態を把握するために毎日健康確認を行い、生徒が安心して学ぶことができる環境を整える。</li> <li>・地域の公的機関等の外部人材を活用した生徒への研修や講習を実施する。</li> </ul> <p>ア・部活動時間が短い中であっても、効率よく活動し、定時制通信制大会等へ積極的に参加する。また、部活動を通して集団の規律のあり方など理解させる。</p> <p>イ・行事等を通して、自主自立の精神や他者と関わる力を養うとともに、各行事の目標の明示と振り返りを行うことにより、達成感、自己肯定感を高める。</p> <p>ア・教員間の意思の疎通を高め、活発な議論を行うための連絡会議等を実施し、学校運営上必要な情報共有を図るとともに早期発見や早期対応を実践する。</p> <p>イ・学校の様々な教育活動を学校ホームページに掲載し、保護者や地域に情報を発信する。特に保護者についてはホームページとメール配信を連動させて積極的な情報提供を行う。</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断の項目「悩みや相談にのってくれる先生がいる」の肯定率、90%以上を維持する。[95%]</p> <p>イ・教員向け学校教育自己診断の項目「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」の肯定率を90%以上にする。[75%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒のコミュニケーション能力向上や支援教育等の教員向け外部研修への参加者数、60人以上を維持する。[70人]</li> </ul> <p>ウ・主体的に健康の保持増進に取り組むことができるように、保健や食育、安全についての情報を生徒、保護者に発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登校時に健康確認を行い、保健室、学級担任と情報を共有し、生徒の心身の健康状態の把握に努める。</li> <li>・警察や消防署、区役所等の外部機関との連携による避難訓練や講習、校内研修を年3回以上実施する。[2回]</li> </ul> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断の項目「先生は、学校生活で自分が努力したことを認めてくれる」の肯定率、90%以上を維持する。[95%]</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断の項目「学校行事が楽しく行われるように工夫されている。」の肯定率、90%以上を維持する。[100%]</p> <p>ア・教員向け学校教育自己診断の項目「職員会議、連絡会、情報共有会議など教職員間の意思疎通や意見交換、情報共有の場として有効に機能している」の肯定率を80%以上にする。[75%]</p> <p>イ・保護者向け学校教育自己診断の項目「学校はパソコンやスマートホンなどやインターネットで情報提供している」の肯定率、90%以上を維持する。[100%]</p>	
2 確かな学力の育成	<p>(1) 「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善への取組み</p> <p>ア わかる授業の推進と基礎学力の定着</p> <p>イ 授業アンケートや学校教育自己診断を活用した授業改善の推進</p> <p>ウ 1人1台の端末の導入に向けて ICT の活用による授業改善を推進する。</p> <p>エ 西野田クエストの活用と資格取得の奨励と支援</p>	<p>ア・生徒の学力差の幅が大きい本校の状況に対応したわかる授業や基礎学力定着のための教育課程の改善と教員全体の授業力の向上。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・0限目授業の実施と西野田クエストをさらに充実発展させる。</li> </ul> <p>イ・授業アンケートや学校教育自己診断を活用し、生徒や保護者のニーズを分析して各教科の授業改善を推進する。</p> <p>ウ・生徒の興味・関心を導く ICT 機器等を活用した授業数の増加とグループウェアの使用に向けた校内研修や研究授業を実施し、教員の ICT 活用力の向上に努める。</p> <p>エ・生徒の学習意欲の向上に向けて、西野田クエストの活用と資格取得の奨励と支援を行う。</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断の項目「授業内容はわかりやすい」の肯定率、90%以上を維持する。[91%]</p> <p>イ・教員向け学校教育自己診断の項目「学習意欲の高い生徒や低い生徒に対する学習指導を、個に応じた視点で工夫して行っている」の肯定率、90%以上を維持する。[90%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシート全教員提出。</li> </ul> <p>ウ・教員向け学校教育自己診断の項目「コンピュータ等の ICT 機器が、授業などで活用されている。」の肯定率、90%以上を維持する。[100%]</p> <p>エ・西野田クエストの活用と資格取得に挑戦する生徒の増員及びその合格率を80%以上にする。[63%]</p>	
3 夢と志を持つ生徒の育成に向けた指導計画の確立	<p>(1) 社会の形成者としての自覚と忍耐力・責任感を養い、規範意識を身につけさせる。</p> <p>ア キャリア教育の実施</p> <p>(2) 出身中学校との連携による中途退学・長期欠席の防止および原級留置の減少</p> <p>ア 不登校生徒への働きかけや保護者との連携強化</p>	<p>ア・通用門でのあいさつなど、教職員の積極的な関わりや、清掃活動など地域との交流を通して社会人としてのマナーや規範意識を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育、志学、道徳、人権教育を総合的に行うための校内研修の充実を図る。</li> <li>・系統立てたキャリア教育として、総合的な探究（学習）の時間やホームルーム活動を活用し、道徳や人権等の指導内容の充実を図る。</li> <li>・進路担当者や担任等のキャリアコーディネータを活用し、生徒の進路ニーズの把握に努める。</li> <li>・キャリアパスポートの作成を通して生徒の自己肯定感を高め、進路実現に必要な力を身に付けさせる。</li> </ul> <p>ア・出身中学校、前籍校との連携および保護者懇談、家庭訪問、電話相談により共有した情報に基づき、生徒に寄り添い、課題を抱えた生徒の出席率の増加を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級担任を中心に欠席・遅刻の多い生徒への素早い対応を行い、生徒の状況を把握し、保護者と連携して欠席・遅刻の増加を防ぐ。</li> <li>・ケース会議を迅速に開催し、SC、SSW との情報共有を図ることにより外部機関との連携等を含めた適切な生徒支援をおこない、中途退学者数、原級留置者数を減少させる。</li> </ul>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断の項目「将来の仕事について先生と話したことがある」の肯定率、80%以上を維持する。[86%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校門常駐体制を維持し、認められ、見守られている安心感によって自尊感情を育み、生徒と教職員の信頼関係を高める。</li> <li>・地域清掃年2回以上。[1回]</li> <li>・卒業時の進路未決定者0人をめざす。[1人]</li> </ul> <p>ア・中学校と連携がとれる訪問回数を維持する。[16回]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭と連携がとれる訪問回数を維持する。[31回]</li> <li>・生徒全員の出席率平均、80%以上を維持する。[84%]</li> <li>・ケース会議について、必要な開催数を維持する。(SC、SSW 等不在時でもケース会議は実施する。加えて、管理職と教職員、事務職員とも報連相を密に行い情報共有を図る。)[57回]</li> </ul>	
4 進 と働き方改革の推進 校務の効率化	<p>(1) 働きやすい職場環境づくり及び教職員の健康管理</p>	<p>ア・ノークラブデー、ノー残業デーの実施及び学校閉庁日の設定やゆとり月間、週間などの積極的な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の勤務時間の管理を行い、時間外勤務時間の減少を図る。</li> </ul>	<p>ア・全教職員の年間1人当たりの平均時間外勤務時間について50時間未満を維持する。[36時間23分]</p>	